

土木學會創立25周年と

八田會長の講演

社團法人土木學會は創立以來第25周年を迎へ、10月18日より3日間に亙り記念大會を催した。日支事變中の非常時局に際し大會は質素に催されたが、18日の上野精養軒に於ける記念晚餐會は出席者約300名に及び盛會であつた。

會長八田嘉明氏は晚餐會席上に一場の挨拶をなし、直に中央放送會館に至り又別に「戦争と土木」なる題下に全國放送を行つた。

八田氏は近代戦争の特色は、國の總力戦である事を擧げ、戦争目的達成の爲に國家の總ての力を充分に發揮しなければならぬが、特に科學の應用の最も必要なるを説き土木も廣き範圍に於て戦時に偉大なる貢獻をなしつゝあるの事例を擧げ、今後に於て日本の土木が興亞の大業に一層の重要使命を有するものなりと説き、而して最後に平素から技術部隊の如きを組織して非常時の要に備ふべき事と、從來の工事施工が年度豫算に囚はれすぎて兎角遅延に馴れてゐるの弊を改むべきである事を強調した點は最も注目すべきである。

我國に於て土木を行ふに革新を要すべき點は澤山にある事と思はれるが、久しい間の因循慣例は中々容易に改め得られなかつた。まして若き時代の革新的主張も、年を経るに従ひ其人の地位の向上すると俱に立消えとなるの例が多い。然しながら今日の時代こそ、各人が革新的に協力し實行する最善の時期であると思はれる。此意味に於て會長講演を一層意義あらしめ度いものである。

土木學會創立25周年記念大會次第書

第1日 記念晚餐會

期 日 10月18日
會 場 於上野精養軒
會 費 金3圓50錢
餘 興 講演 大島伯鶴、奇衛 李 彩
宴 會 (午後6時)宴會中會員の卓上演説

開會之辭 講演會委員長 工学博士 草間 偉
接觸應力の一問題 (最上武雄)
架橋の振動に關する研究 (岡本 舜三)
コンクリート堰堤施工中に於ける内部温度の上昇
狀況と本邦産セメントの強度水和熱比に就て
(高田 昭)
コンクリート振動機の性能に就て(内山 實)
ビルディング基礎並に地下室工事に潜函工法を應
用せる實例に就て (高木 進)
上海新都市計畫建設事業に就て (櫻井 英記)
關門國道隧道に就て (加藤 伴平)
大阪地方の鐵道改良計畫に就て (立花 次郎)

第2日 講演會及見學會

期 日 10月19日
會 場 帝國鐵道協會(丸の内3の4)
開 會 (午前8時50分)